



鴻巣西中通信

学 校 だ よ り

鴻巣市立鴻巣西中学校
鴻巣市大間1161番地
令和4年12月1日

第 8 号

「日本が誇る『信頼』と『規律』」～W杯 魅了されたドイツ戦～



日本 強豪ドイツを破る

校 長 服部幸司

先月11月23日(水)、サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会1次リーグE組初戦で、日本は優勝4度の強豪ドイツを2-1で破る金星を挙げました。

当日のキックオフ(試合開始)は日本時間で夜の10:00。前半、後半45分ずつで、間にハーフタイムがありますから、しっかりとテレビ観戦すると0:00を超えます。翌日の勤務を考えると悩むところでしたが、私は最後まで観て日本を応援する、と心に決めて、テレビの前に構えました。

しかし、前半、ボールを圧倒的にドイツに支配され、思うがままに揺さぶりをかけられているような状態、33分にはPKで先制を許し、その後も防戦一方(ぼうせんいっぽう)。やはりドイツは強いな、と降参に近い気持ちになり、赤い電源ボタンに指がかかりそうになります…。その時、テレビ画面に映し出されたのは森保監督の表情。決して諦めていない、逆に手応えを感じているように見える表情です。「最後まで観て日本を応援する」という決意を、私に思い出させたのです。

0-1というスコア以上に屈辱感を味わい続けた前半45分。折り返した後半の45分は、同じチームとは思えない躍動。前半でドイツの戦い方を見切った森保監督の判断・覚悟が選手全員に伝わり、世界が真似できない「規律(各個人が守るべき決まり事を守り抜くこと)」で、正に怒濤の攻撃。この試合の最優秀選手に輝いたゴールキーパーの権田(ごんだ)選手は試合後には「日本はみんなで戦うことができる国。僕ら一人一人の力はもしかしたら大きくないかもしれませんが、みんなで1つのことを一生懸命やったらこのようなことができる」と証明できたと感じています。」と、日本というチームを見事に表現していました。

そして、「一人一人の力」というのは、ピッチ上だけではなく、選手だけでもありません。国際サッカー連盟(FIFA)は公式ツイッターで、ドイツ戦で勝利した日本代表のロッカールームの写真を紹介。「歴史的な勝利のあとです。日本のファンがごみを掃除してくれた一方で、日本代表もロッカールームをこのような状態にして引き上げていきました。汚れ一つありません。」と称賛。試合後、日本選手初のW杯4大会連続出場を果たした長友選手は「勝った後こそベテランの振る舞いが大事。僕たちがいる意義が試される」と話しています。

舞台はあまりにも違いますが、私は、本校の強歩大会や校内合唱祭、体育祭も同じなのではないかと考えるのです。「みんなで1つのことを一生懸命やって、見ている人たちに、感動を提供する、勇気を与える」点では同じなのです。そして、そこには、「信頼」し合えるリーダーとフォロワーがいて、「規律」がなければ、みんなで戦う、演じることはできないのではないかとと思うのです。

試合翌日、竜王戦(将棋)に臨む藤井聡太5冠がドイツ戦について聞かれ、「前半戦は見ていましたが、朝起きて、びっくりしました。」と答えているのを聞いて、「藤井5冠でも、あの前半なら赤いボタンを押してしまうよな。」と妙に納得してしまったのです。